

## 早稲田大学 文学部 世界史 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問7題と2題減ったが、出題されるテーマ、そしてほとんどその配列まで昨年の一文学部と同じ。論述は独立した問題となって字数は20字と5字減ったが、昨年と同様、中国史から出題された。地図問題は出たが図版を使った設問は出なかった。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔I〕	先史・古代エジプト・秦始皇帝	大問〔I〕は去年も先史と古代エジプトが出た。去年は写真で難しかったが、今年は易しい。	易
〔II〕	中国文化史	大問〔II〕の中国文化史も去年と同じ。設問2の「孝」以外は易しい。	易
〔III〕	明・清の国家権力	設問5は20字論述。去年は「科挙」で今年は「天子」。似た雰囲気の問題である。3つの指定語句をうまく使ってまとめるには字数の制限があまりにもきつい。字数に収めるには一工夫を迫られる。	標準
〔IV〕	中央アジア・インド・東南アジア・日中戦争	相互に関係のない問が6問並ぶ。2のインドにおける英の戦争は「デカン」からマラータを選ぶ。これが南インドだったらマイソールである。5はコーカンド=ハン国がいわゆるウズベク3ハン国で、それ以外はキプチャク系国家。	標準
〔V〕	中国の紙と書	王羲之と顔真卿で漢字を正確に書くこと。また、唐代の書家は多いが、その大半が初唐に集中しているから、「安史の乱」で顔真卿と特定できる。	標準
〔VI〕	地中海世界の古代・中世市民	設問1-Cは答えに困る。前の文章が「商人ギルド」ならいいのだが、ただ「ギルド」ではあとが繋がらない。そこで、「ギルド」を商人ギルドとみなし、「ツンフト」としたが疑問は残る。	標準
〔VII〕	産業革命期のイギリス	設問1は正答が2つある。設問2のトマス=ペインは政経でも出ていた。	易

[総合コメント]

去年出た図版はなくなったが、全体の印象として形式といい出題内容といい去年に非常に似ている。そして中国史、とくに文化関連の出題が目立つ。3度目の正直ではないが、来年度の備えとして中国文化史の記述対策は徹底しておきたい。また、小論述も連続して中国史であった。20字とか25字(昨年)は字数が少なすぎて、まとめるのにかえって苦勞させられる。やはり、慣れがものをいう。類似の問題を積極的にこなし、短時間で要領よくまとめられるよう訓練しておきたい。そして、なんといっても早大の他学部の問題と比べると取り付きやすさが際立つ。とくに煩瑣な文章正誤判定問題が少ないので、基本を見据え、しっかりと地道に学習すれば、順当に得点を伸ばせる。また、世界史にやや苦手意識を持つ受験生でも時間と労力をかければ確実に合格点をとれるだろう。その反面、失敗は許されないので、ミスを犯さないようくれぐれも注意が必要である。